文能奇我出於其胸
たまきと天地を出入し竭き
江海代ゆ〻ゑ塵埃
をしりぞけ雜俗の
俗を寸留石田敬忠記

人面人 義法 古象なるものを
手ものさらへのうけうをもれい
うゝのせうを 義知識の
れをけ〳〵報謝せう
さゝ淺のうさる物うを雅ひうの

奇を出して九ゝ九ゝ
空ゝ空一唱 鐘を打ちうを
ちゝ無雷を長ふ空 南氏
せうれ 味斷 八面清風
を拒 物 地 生 慶を 冥

天神の御子の座ましける木
人の生ける宮殿たる石女の立て
舞ひ給ふすさのをの福の
宝の事十方三界空なるし
大地を身地にきれいさの切を

称して九夏寒岩に雪三
冬枯木に花咲ける数
法を里に伐あつて散さんハ
神人命にて無事を執る
ものハ榊井惠西なりと云みるや

この一巻筆跡拙劣にして
文句の重複なる所多く
其是非を弁ずるに足る人
なき事

石井活雲誌

高井士巌書

凡例

一 此集に所載の御方々御歌一文字
有馬の尼嘆ふ[illegible] 御本山に繁栄を
[illegible]ひ[illegible]る家号を大根屋姓に藤祢号石田
名に敬起字に小右衛門なる人の深切を[illegible]
[illegible]を拵ふ[illegible]
[illegible]文字[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]南先[illegible]

一　御門葉のうちにて御法和尚續の系かうまで
四たうひ中金[illegible]うとうちひいたる拂子を自
惜らしく[illegible]ふ他宗他つよかる事ふ[illegible]
やうとすれども他つうの射[illegible]法をそなふの得[illegible]て
西上[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

成恩寺禪月子

御本山御琴かかる石田氏の
[illegible]

金ケ崎

筑紫琴　[illegible]て[illegible]ふ
[illegible]成恩寺との

石田氏ふ面を[illegible]　仝

十[illegible]　[illegible]重[illegible]石田氏の
[illegible]寸禪月

石田氏得んとて
はるばるとこゝまでたづねこられし石田氏も
こゝもとにて為悪るの
五蘊六欲の濁世をうべなひ給ひ
居ながら天くに住さやうの
大善知識の受命をたゝくもひ
御勝れをふすめるの御方を待し
こゝまつるに即得往生住不退轉の御
利益の今現在ましますをもふんを

今

石田敬起

ちかひ願ふ打ちあつめる大根を
牛頭力にて引出される
自力の拵こゝきを
ひつのかたちおりふしの竹を赤を
のまま打こゝ紙を貼て候く

古

[illegible]

六番知識より石田氏の

御本尊を拝領仕りその移徙の

法延ましまして

起信

一如より稚くうるをいうして

[illegible]化尊の[illegible]法の舎

[illegible]月末つと石田氏の移徙の[illegible]

千竹舟

[illegible]の[illegible]と

[illegible]郭[illegible]

癪病氣の大妙薬

人参

辟易

大魂丹

功能書

一 大魂丹[illegible]幾いいろぐ年久しき癪病氣とうるひ市薬うて積もる病とのねをきる半体よ祈のどと夫癪病とうづと生をなるみて[illegible]ぶ中古より悪毒ほうよう苦うその毒とり月を

絡く悩まんと考り又い述懐とらふ懐ふなるれば
その病となるくんとつろ〳〵を今の薬を用ひ又い
医師まねむとくぶるさ〳〵ふ手病気と平癒さす
をいくそびこまるよろ〳〵日〳〵筋肉とゑ乳〳〵中一
んり繞とくるさ〳〵め又繞六腑の役人と病〳〵毛
ある穴のつゞをとぢく脹痛となり又昼夜ふ六十四
筋乃こ〳〵わをさるづし〳〵ふ痩と痛このなす
らさなり志ふるよい大魂丹を用ひれば筋肉
の気血とゝ〳〵のへもれりつゞをゝ〳〵う也

脹痛をやめ諸方まく〳〵ふ〳〵ぐ費〳〵よ〳〵人気事
血をめく〳〵志まふより筋肉の沿ひまゝふ清ふ
の滞ぶぶ〳〵まと六十十四筋乃ほ〳〵ゝを日く安
らふ腑乃ろぶ筋ふかの筋腑を精気をまして
筋肉をもるさるふよろ〳〵んの繞乃〳〵めを休め
又繞六腑の役人も精力をま〳〵又ぶ〳〵筋〳〵
つ〳〵食をすゝを孫ぐ〳〵き痩を安繞よ脹す
ゝを全く奇〳〵妙〳〵の法薬大魂丹の徳なり筋乃
ふ又痩痛の内ふ痩壊痛毒とふ〳〵根ふゝを毒ふり

汁毒六十四物のたゝりとなりひ良もすれば瘡瘍を
攻撃剤をもつてくだんと欲して時くせめあてをつへども
さらふ瘡毒ふ物とあらぬ又生の毒ふ痛を受る
ときハ弓箭をさゝたるとき新ふ怨の色を発するたとへ
如何ようの名を得て妙薬きゝるとも敵せんとある
ときハふ右大魂丹おゝと用ゆるとき瘡毒さらどころ
ふ弓矢のとゝら捨いろの色も忽ちふよろこびの色をを
含こはのふ大魂丹の薬味ふ加へり又他の瘡毒疱毒
をとゝふせがんと精薬〳〵乾ふ毒薬変して薬となる

半かくのめ〳〵又いろ〳〵ときき瘡瘍とゝふ汁
大魂丹を用ゆれも直ふ日なるふ氷をもくだくく瘡
瘍の大毒ふ限りてい平色滅消すとゝふびなべ
かゝべ各市動考あるべ四月ひなるべくく

養生書くす事

一

瘡瘍のこゝ病い元来不養生ようおうり皆凡人ゝ
衣食住福吉凶よいゝと上下の区別なくあるて上ゝ
夫〳〵ハ技助をもすふ物ふ手拭のまゝとゝゝぶして大
食とふ又いゝ服とゝ者〳〵ハ己ゞ家業ゝ為ゝ

薬ふれば病を治し病と成るの病根なり此病ひ[illegible]
[illegible]倍ふいふくとんん抔と云て病を養ひ又ハ雑炊粥
[illegible]化して苦労を[illegible]然とのごとく平生養生
[illegible]先ず五穀を食らハ麦食らをかゝ[illegible]五穀を以て[illegible]
[illegible]奥島の図を絵ゞて食らず廉
飯廉菜を食ふ士農工商の所業よりこゝ[illegible]精
[illegible]仮令ハ五穀を育つるに清浄のものを以て肥と
[illegible]清浄の物を[illegible]肥[illegible]清浄の二便とを
つゝ[illegible]中なる米[illegible]なりかゝて人糞よりもつゝの

[illegible]乃美服美食をいとなむ[illegible]立
[illegible]病の病となる返くも急飯急指をもつゝふ[illegible]
[illegible]人糞を忘れ[illegible]病出久なるゆゑ[illegible]
[illegible]ものゝ病あゝ[illegible]
大魂丹本草不用ものは書生出ゝ通あるゆゑ自然と全
性[illegible]全くゝ[illegible]

毒物

丹一おごり豆腐　丹二ぬすびとんぐ　丹三[illegible]
丹四上菓子喰[illegible]　丹五[illegible]

せんぶやう 紅吹水 丹金 茶 計 三合入せんぶ 二ふくろ 表

紙のふくろ　　紙茶切紙味る可知

本家調合所　　浪華　所名不及記

取次所　　日本　六十余州有之

御夢想の哥

廣瓦の　やまとなでしこ　大魂丹

人参　ようとう　切の　ちろる

ちちちく　天ようみちちく　大根　ハ

日本　そちちの　唐　も　信愛る

御勘定の再勤　諸　信　ちも

日〆　ようて　御境内　系備の

宮中　ふようちく

歳暮　　人ちく

御方便ふ　紙　味のちく　ち

ちちち　ちまり　ちれちく　安ちち　ち

しよ　石田氏　ち　政華　逢ふち　ちひく

歳旦　　仝

ちちちの　ちうも　味て　花の　ち

石田氏の連なる改革もまろ〳〵
如來の御さとりをまろ〳〵

春興　　今

仏の御影よさゝやを大根

奉
浪花長者大根君改革仕法諸國
一和詩

雖大根君非大根　浪花玄物贔屓繁
銀方座本大評判　諸國帰依如釈尊

三樹老人大通

依　君命浪花石田敬起大人
飛雲閣居至日御改革法発
題

植村洸

玉殿听聲絶　郡賢肝膽傾
浪龍雲現體　天下一陽生

つゝまるとゆるけきまゝやなふ之津の梅つかゝる三ケ下引

[illegible]

六條の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石井高明

なみかしめ　ゑとくみくる代のなる
あわひちくさ　なくさ津のうち
うつきくさ　ちかめ神くかりあり
かくをふさ　ふさんのちくさ
右　うくいちす

[illegible]

大治

[illegible]

全

[illegible]

大ちんち　ちんちのちくさ
のあ門　系もちまつくり
はすのくさ　なくれあ　ゆ紋の垢

計勢

杜若

[illegible]やせやたれ屋。一本目ふいてきました。二ありふ
ぎ[illegible]。三本めふいてきました。四本めふ[illegible]
ふんでや。二つもの四ぎせつよ。大根もきりひろげ
ます。七ぎりふ七ぎりあり。八ぎりふるやふ。九つ小判と
つくなくへ。十ヨでふつ四ぎ解。げ[illegible]ふきとつりて
ゐもふ馬の四ぎ[illegible]や。地京もなびひさ[illegible]とだす。
まさいろくのうげふ。金箔まぶし。茶なるこ。四ぎ出
出ます。夜と日ふふ[illegible]ぐ猫大らやとふふる。

[illegible]

[illegible]人[illegible]

掃くるめよ雑陰り掃ぬきて
[illegible]掃まく[illegible]大[illegible]ん

[illegible]陰市級り掃ぬ[illegible]を拾て
[illegible]捕ひ[illegible]

仝

大[illegible]や 少[illegible]つ[illegible]と大丈夫
[illegible]を[illegible]五[illegible]用達 種

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漢光寺

石田つけうえもの 味噌ひしを
りあ 一 り 大らうの あ
大きうんを やくさうつるの田植
石田をきんけし かるい 改革

人ふち

少ちまつをいつをとふるの方松や
六十 第 両 生きたを

全

大根をおりり石田のようきらて
うをひ 俳判 らくの所法

全

瀧朗

りふなをくく
新ふ夕方 出ふつをふ 泳ふふき
ゆうんふ夕をゆうんすふく
月をふをく

全

みくをくかくをちをる 安ふり世の
うをくかをりを 改革

ちをひ四郎門をを十八人より安法し後 仰ずれて
五を整ひを みをれをかり法安をあて十八歩の
り駅ずうんを安ふんをふ 安ひをふ四郎り
て長脇須安をて松りをひのを手を をやり
寿をりをりををひの
をふりををく 四時寿をりをれをと松や本

法華とそ〜みたかた　人もあ
もうう毎めして　こゝの　誓あ
そゝゝ紙り経陀りかゝ
分と称う〜　貴とくゝとゝるゝ
あらつ所ゝゆゝ　あゝゝを　姉き
祇谷大法王のみけまくも　ゝゝゝ　祈を
石田のよりゝゝ　ゝゝゝとあゝゝゝかきゝ
ゝゝゝなんゝゝ　ゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ
あゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　ゝゝゝゝ　

まけとぞ。たちむ天命はてうこと。擬取不捨のこゝろ明ら。
なふ所込て不良出来。生正覚のこゝろ。ぐぶと
きみとし有ぐるや。分こと。つまりの悪徳。雑術のこゝろ
称名ぞ。ふらく寂くやけぐつふく。初住発菩提や叶和
妙縁こゝろず。元根続こゝろ。煩悩得倶こゝろ。
時く刹こゝつ四く。清ちゃおりのちづくと。ちち
よろふぐたらこゝ。かこゝ見出きこゝろ。良
力り鬼が来こゝと。けやこゝ掛がとんぐ出で。命こゝ
量のこゝこゝ。西こゝ方へこゝひまこゝ。西こゝ

俄の谷こゝ。こゝこゝ鬼どといち。ちこゝやかふこゝ
こゝ見ぐやふ。雑り雑所ふり拾こゝ迎四くさきふ 究
こゝ。さこゝこゝせねこゝ戻こゝ。こゝこゝといこゝこゝ。こゝ対見。
ふこゝこゝこゝ西のこゝ。め尻水入のこゝ海へ。こゝこゝこゝふ
こゝこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みやこけのいや不可思議の所なんゝ

布袋屋老人

なんとふること天満大きん

よゝ人ふね

年毎ときくに度ごとに毎ごとに

ちよう万代ときんとときこつる

今

もゝこゝの時をのまとさうえきて

こゝふる法人のちからを祈うえ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 仝
[illegible] 仝

右

長谷川

石腸信力腹緇素　百萬黄金方寸中
雖被縛乃[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

改元ありしむ革といふ字かとつく
文字にて易ふいとく湯武革命應天
而順人とつらなるに今や天のとなりて
ものを為す時いとう地をのがれ
無業の地なるを人をもちひ和と
ひろ紀の中ほどにひろうて皆康
なるべきを知なるとかく国く
幸につれくるしおとくんを侵して
勢をとるをもつて御孫氏の所にも怪しの
ひまりいさらなる勢をとりもむとひ
法をくせつくとものふりをみるに

ものくかなるをもつてをもうの事なる
俗にて紙のさるをもうくせひまりを
ようりの仰せをもちてをもひをやうの年
くまのかをわるきくもの事ふ世を
よの世をもしとをきふつらくふる
かきうなく俗をくるをあさしをほ
を実をとあしくいをうをかうて
俗のとりふるもん

人をもつひをいく四りの人をなつき
をもうふをそむくをふく

ようて人を知

[illegible]

[illegible]

寒部亭

[illegible]

[illegible]天保二年[illegible]一天四海之内[illegible]
[illegible]家中より我一と[illegible]の[illegible]
[illegible]

大根屋乃[illegible]改革　[illegible]

杜吟

[illegible]ふいやます　[illegible]

[illegible]大判小判[illegible]孫　仝

[illegible]

[illegible]改革[illegible]仕法[illegible]

[illegible]

[illegible]大根[illegible]

[illegible]虎の[illegible]ふ　[illegible]勢ひ

四月廿日[illegible]十[illegible]改革

[illegible]

[illegible]と[illegible]改革[illegible]人[illegible]の

[illegible]大根や[illegible]孫

[illegible]

百まんさん

[illegible]代とさうえもんにけんものさる寅の
[illegible]ようるもつやきうるもなりうさうえん
[illegible]ふやくくふさつひるゝ糸もいふうとかつく往
てひわりのうんどゝりろりと中ていたん十ふうひろ九百万だよろ
つけげくうやのまもも三月三百ようとうのるいつぺつよ
うんーもようまつけんけんものうひとうとうよう
あげうものうんどうふうまもせたまつはまうふやでうふ
うふひるゝあげまもくゝ糸ものあげまもくあげ

なるとのいなりゝ大判ふうん お金を多くけうとうさうぎ
ううのりり多くゝ又のりりくゝまうひりうんうふうとけうげ
ううのいやくうもの悪者のうちようとうのうとうんてれい金
糸ひやひの紙屋紙紙ちりゝん市四十紙得よ市ふふ
数千いろくゝうふのりりたてふひくをまちくゝ小
むすめやもくゝのよううくうちまてようりうるうんげふ
ももうまる中代なりひきあり中仕法のうくうふずりりく
ずくくなうももうまるかどうくうつひせうふずつひ
うちとうふちる市うんうんかくくもうあう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石田家より二条殿へ参る道すがら

一夢

あつまきやの筆ゆつるみのかたうら

春の日の長閑よそふる竹の名殘

時雨降る石田と夫の名をうつす　　仝

我こゝろおもふてさそふなかめ

つれなみやくるゝふくゝ新良

我日乃年よかうめもあき　　仝

石田の子菌ふみをうら

石田家歌仙

六条乃宮殿の古くゝ

とうつゝいなさくゝきよ宮ゝ行る

もかなすゝゝ古ふるの竹をホも

のゝまよとうゝのうらをうて終

ちと志つきふるふくゝふるふ

ゝゝ志つるきゝふるゝ

ゆくゝまとあゝ後ゝ

ゝくゝゝ古つゝみ侍

下野正栄

つまの志ろ志ゝとゝなの志ろ

梅ゝゝとゝとなゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

金七両

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一味とし[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一夢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漫成呈石田君

葉蕨邦俗称大根能令病者增進
餐豆烹豆糠又豆醪人人為言食
物尊

同歩

魏徵述懷韻

自君御引玉寄進懺群軒縱之財
宝者皆濟志尚存今般縁御蔭参
詣御門懇志盛大扱智謀傾
龍藩咸言碁年際皆濟如平原卓
量稀今古何同智如猿既悦真信
者還驚貪夫魂豈不憚心配深思
法王恩諸国光二腹境内重一言
人人感忠信金銭誰復論

鄱陽
普照

古

馬鳴菩薩の倫の中よりあまつ雲をいと
縁そえを中ちんとうとほうらのこんを大きも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一あり

[illegible]

[illegible]

山科[illegible]のめ[illegible]

[illegible]の[illegible]も[illegible]き[illegible]

[illegible]

[illegible]

公立

[illegible]波津[illegible]

[illegible]

轉和

[illegible]

[illegible]

長谷川

[illegible]

十[illegible]

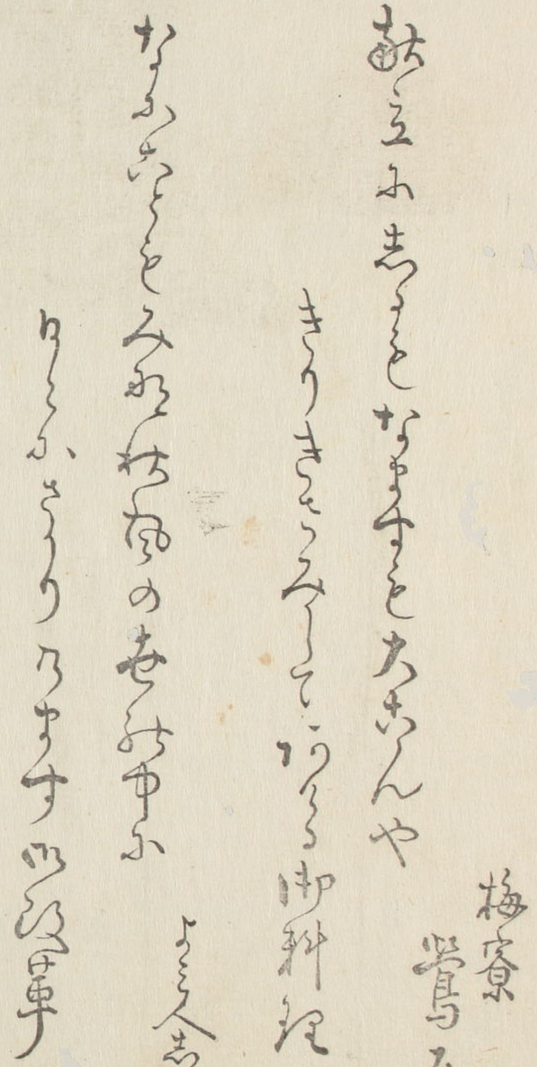
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御改革
萬濟
全


梅窠
鶯居
きりきりすの御料理
なるほどとみあわせの巻物
りくふさりりくまつの反事

かくどうはんぐやうぶこうんぶようこうひまいまいぶく
うりくるくるうり。富士かくるこ国より。雨坊もおだてひ
さんくるもさんぢうこんくるかやとふぬぐやとやうしくる今京の国
れ四おお通り。おかきふ四寸をひのりこ寸。そうりや 溝
中う。金ちう五面。ようぐ寸寸よのふくくくやまてきひのちひ
て今五月廿日。寅ちう一ぬんぶくんぐ四寸ま以美い氣が今
四寸国うくくく

石田新起めの改革こゝろを
きゝをよろこぶ信達乃浦うせり　盈化
いちく月ゝ日ゝ見ゆる足ゝ
俗ゝいちんゝ雨も法ゝ　仝
なるゝ行ゝきり改革乃海
天を地もかんの行ゝ大根乃　仝
いち味なるめ意志上納
大ゝんの一味なるゝ　けゝしゝ　仝
なるゝかゝやくゝいるめ改ゝ

俗乃和新い四海よみちゝゝを
いゝる　本家ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
志乃法ゝゝゝゝゝ法乃俗一界
ゝゝゝ生者乃ゝちゝをいちゝゝゝゝ
俗ゝ乃ゝゝゝとなるゝ新弄乃ゝく
行ゝ大海の大剣の恭俗ゝの大ゝゝゝ
汁乃
新居

東ゝ乃稜おゝゝゝゝゝ大根屋
ゝ和ゝゝ一味ゝ和なるゝ
ゝを出ゝゝつゝけゝゝ大根や
ゝゝ天ゝ乃ゝゝゝの大人

名物

七十二番

湛露

御門主より御所へ献上の政草のいさりあり
御門主より御所へ献上の政草のいさりあり
御所へ献上の政草のいさりあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

亀長生種

[illegible]山[illegible]弘[illegible]や　仝

[illegible]代[illegible]不[illegible]菓乃[illegible]

[illegible]　仝

右

天保二辛卯七月書贈石田君

龍谷微臣

泰山巖

大法人天歸依　改革群黎賛襄

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

東籬亭

改革の仕方こゝ定めたるや　五了形　徒磨

くゝんふゝゝゝゝ俳

喜石田敎起君上

殿賦以贈　皆乗院大誓

浪速三冬風暖濱　千年梅樹化成人

籠星籌策法王下　六殿昇平逐日新

高砂

上青支配かゝゝ静かゝそ。口入れとゝまれ時津

熊の笑顔もちゝ嬉堂なれやまゝ

とゝりてゝ。増てゝたかゝられ船

あゝゝぎてゝ。持て愚やかゝまゝ世ゝ

銀ゝてゝかゝもゝる。金銀ゝたゝゝ

ゝゝゝゝ

天元舎　定一作

難波

[illegible]通をゆゝしくやふくいやましみんぞ
[illegible]寶乃千両高両れ千箱の玉紙をて
まいる

成立樂

[illegible]皆納ふ其数目をそろひおきもれ寺
ふも寶意をいづれ成立樂ちよをなぐの
両金録ふをそれ智を通ふおひしくの巻
[illegible]相續乃聲ゞなれしをく

右

[illegible]天乃支敬起老兄
御願の寿命を彩うとちろ配乃ふみ
うまうを改革せ[illegible]乃月めり[illegible]
ひろうう月つ[illegible]のちふふ[illegible]
おめいろうをやうをひろ眉を
ひうきうう

雜木まて咲くやうすの花乃山　限花賞月
山ようと宮よもちつ紅葉引　其流
一やうふやんようなひくすきうふ　島流
きうもかうまんもなるをよう　紅琴女
面乃うふ雨も月れうよけを　紙白

きくのはなや　はるもなかばの
、花燭

ゆきやこゝろと雨の時うつり
、秋年

ちるはやはけしうきかを　ゆく時
四世六千坊　一肖

ものおもふ　ゆくすゑ　なつかしの　秋くれの
慶長　夢雨

手ふくろやこんやの小鳥の　ゆめ
紀年　白雲

月やあるものさびしくなる　ゆく
年時　菊也

移るのさすやゆくすゑの　ゆく
、秋映

又訪ふ　ふるさとの　ゆく
紀年　士雪

やれさるふるさとや　初ゆき
タンコ　美氣

雨は　ふる　宵　自　ふるふる
スヽ　西月

参詣の　支　ゆく　ゆや　小田の　ゆく
フンコ　富上

綿　ふる　ふる　はる　田植　外
、月虚

竹枝　ゆく　ゆく　ゆく　ゆく　綿の　秋
、年く

ふる　と　年　て　歩　初　ゆや　初　行
、伍丈

いつ　つ　き　雪　や　一　綿　の　梅　の　花
三河　卓池

え　自　の　自　ふ　中　途　か　ゆ　出　ふ　ふ
越中　朝拳

[illegible]

体力をつくるよりかたくあるべし

名月となつく仕るめ菓子の自　ヨト　鶯笠

年毎の[illegible]ばと志[illegible]の神　、蓼杖

[illegible]まてうまて手をとるや竹[illegible]　、梅室

ぬるゝ夢山[illegible]て明る[illegible]　、獲物

つりて雪月をみるなるゝ　、確嶺

[illegible]とあく投込む和[illegible]し　尾張　秀[illegible]

[illegible]白き白をとゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

カヒ　嵐[illegible]

ナラヤ　沙鷗

、而后

アハ　関郷

イセ　菊広

、[illegible]川

上モ　可布

ト毛　湖雨

おもふ〜ひや わかふ〜わかれ なるもきく
みやこの妻と はし〜うゝゝや 馬のくく
かゝゝゝとまふ ゆりかう 桑山より外
帰ゝゝゝけれと おなしの ゆりかふ
うゝうゝかく 四〜 ゆゝ出 枯生花
稲刈ゝやまつ乃世ゝゝおく 稲の上
月出うよなゝ 庫堂の ゆうり外
切株 千せゝ まゝゝゝめゝゝゝや 山の雨

京 瓶山
浪花 岱年
、自楽
タンハ 蕉夢
、野楊
北越 北洋
嵯峨 太翠
ムツ 壷山

雪 年 ゆ ゆ ふ ゆ ゆ ゆ ゆ ゆ の 雪

ゆゆ人乃 ゆゆ ゆゆ ゆゆ ゆゆ 花

花乃ゆゆ 新ゆき ゆゆゆゆゆゆ

乃月や年 ゆゆゆゆ 四神 紅

枯ゆ枯ゆゆゆ ゆゆ 仲ゆ 枯生花

ゆゆゆゆ 拍ゆ ゆゆゆゆ 踊ゆ 花

月ゆゆ 冥仏ゆ ゆゆゆゆゆゆ

切株乃ゆゆ おゆゆ 植ゆ 年

京 乳也
、千崖
、蒼虬
、樣堂
、貨僕
、太老
、杜蓼
アラミ 素律

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江戸　茶静

、玄奇

、洞天

、史千

漢の張仲景没して乃ち禹餘糧丸れくもも

賣家の西うに赤にふるつるる根元根れ

ともとうもいうのくきをいうれう

是ちりとせ唯雑病ふ用ひるの功なし

張氏夫うるとおそ根本乃ちとせめ今

武門仙門法家改革の法法れ茶ちちに

之の志願といつて之を成さんと欲するに已を
志す人を知らざるの法のごとき毋僧侶
世まことに希なりと雖も世なしまことに稀ふ主
改革仕法の業を已なる人を知るの法なる
より出づる所名法形れたちまち僧侶の
術に中りて妙功をあらはす是れ社会に改革

仕法を根元といふべきなり
弥の志願はいふまでもなく一般に
義の志願を貫き磐石くるの清水を
口を結ぶ紀文常迅速を紀して答へる志
志願を毎ならん時の用乃ち毋あきらか
須ら寺れ苦の之知を紀叩き情法毋のまかなき

[illegible]に[illegible]
あら[illegible]を[illegible]を唯絶力の安心を
[illegible]く[illegible]報恩謝徳[illegible]祖
[illegible]の[illegible]を[illegible]沙漠砂の一粒
[illegible]
[illegible]中[illegible]遠[illegible]

[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

喰物に事欠くことあるべしとぶらつこと
改革根本源と呼べし海内の市門無くこれの
市場の家を九牛の一毛に比べ毎年世界を
少法後の月を立て一脚の義なりと雖
利分大和金正銀の二貨いまだ
梅本にて中古昔の簡無用なり

世を治めんにこれを書物せるものせられ
蕉谷の道のうちを知るを所詮いまの
ときは法をあまねく定められ世行に行ふ事
形しいまも世を治人れいなの世推の里巷の
ものからん命詩ものを云に深く
しらしめ人は純粋和らをもれ一を得ざる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御法中分法作合四十条以法度相
一 御備財〻国御法人官敬法文〻〻
御免状所望之者宥恕正不正を糺
明〻御借済ニ及事
一 御備紙〻国御寄円郎人名前〻法
御文〻〻備人〻〻右名前円壮八合

無之法作牙文〻掛合之者宥恕正不正を
糺明〻御借済ニ及事
一 惣国御講中一条御果一統ニ右日掛名
持参仕之者宥恕事
一 諸国御門末証志上洲并門徒日行
別願御免状上洲金ニ如之 御殿ニ様恕

毛利様御重役様御勘定奉行
備中倉合法中方ハ月ハ京大坂
勿論御国後所ゟ京大坂
御銀高ニ応し備紙六拾匁ニ掛合
対馬藩ニ付ハ備人方程度ゟ
おかい年一

右御改革、嫡家増お徳ハ
御門家ハ勿論ハ甘ハ
此時節到来仕御大事ニ
怪悔先ニ立ます
お歌ハ
御門跡様ハ

尊顔を奉拝仕り長く流涙仕り外
無御座御公奉恐入り申候と申上候由
御つ流一統御障私共者直ちに
宗門改帳御法度と存じ申候
御法度奉背申候と申上候
仕者石山御法雖と申事
御本願御大事と存じ候乃時石山法雖
同様に申事無之と御法度利級者之
立寄り戸を閉野に隠し勝手命を忠の義に
存じ申方々数々申事無申上候
此度当宗門改合御法度申方に相対て

御当流法水を奉授い取後とも
心儀を奉存ゆえ

御愛顧被成下置別信上り物貴
辞既に忠勤を以て行時も
奉安度と工会に出来文仁てあるこゝ所為と
奉存ゆえ相違ゆけ郎に混雑暫時成
猶予おくるべき筋に相成一分を
引請新宅に帰宅仕候

この度し條の風雅ふかく気なさ事ゝあまた
たゝし　御汲華の根元なしば　清流の末乃
人ゝふ者ゝせまるゝせんとて　かゝるうり生
物せとせちなる　紙のまゝ　かく書ゝ
書ゝ　ゆくゝ　ら華

嘗天保二年卯霜月刻成

浪花　大和屋儀助　和泉屋儀兵衛　蔵版

製本　京東洞院通佛光寺上ル町
摺物細工所　菊屋平兵衛